



THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB. 1993



2019～2020 年度主題

国際会長 Jennifer Jones(豪州) 「より良い明日のために今日を築く」
アジア地域会長 田中 博之(東京多摩みなみ)「アクション」
東日本区 理事 山田 敏明(十勝) 「勇気ある変革、愛ある行動！」
北東部 部長 鈴木伊知郎(宇都宮東)「われら北東部、世界のワイズメンズと共に前へ進もう！」
会津クラブ会長 青山孝男 「歩みを止めず、がんばっぺ！」

<No.287 会津通信>
2019年7月9日発行

会長 青山孝男
副会長 高橋真美
書記 高橋真人
会計 高橋真人

◇7月の聖句◇

だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。
マタイ福音書5章23-24節

7月例会

日時：2019年7月9日(火)19:00～

場所：若松栄町教会

司会：高橋 京子 ウィメン

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング 一同
3. 会長挨拶 会長
4. 連絡報告
5. 聖句朗読 高橋 カメン
6. 食前感謝
7. 歓談 キックオフ
8. Happy Birthday! Happy Anniversary!
19日：高橋真人メン
9. 閉会点鐘 会長

<6月例会出席状況>

在籍者 5名 ゲスト0名

出席者 5名

*例会出席率 100%

あかべこ 5,000円
18-19年度合計 33,000円

《例会》

毎月第2火曜日 19:00～21:00
若松栄町教会 (☎0242-27-3944)

キックオフに寄せて



青山孝男会長

前年度は「継続を力に！」スローガンとし活動してきました。26年目へ突入です。

「歩みを止めず、まだまだ頑張られる！」を主題とし、活動方針はそのままとしました。

- (1) メンバーの個性をワイズの力に！
個々のつながりからの可能性を今年度も発揮できるようにします。
- (2) できる活動をしっかりと継続する。
無理なくできることをしっかりとアピールしながら継続します。
- (3) 会津という風土を味方に！
目立つことはしていません。この地に植えられたワイズの芽も26年となりました。
しっかりと歩み、地域貢献をします。

8月に入ると「少年の主張会津若松市大会」の審査員として共催します。少年たちの発表に関わりを持ち健全育成に少しでも担うことができることを感謝していきたいと！

(次号は高橋真美さん)

強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う

理事通信 (東日本区より)



『勇気ある変革、愛ある行動！』

東日本区理事 山田 敏明

理事に就任するにあたり、初心を述べさせていただきます。まずは、理事という大役の職務

を頂きましたことは、私の人生において貴重な機会となり、東日本区のワイズメンの皆様には心よりお礼申し上げます。理事を引き受けたからには、皆様の期待に応えられます様、誠心誠意やり遂げます。職業人である以上、自分の正職も怠ることなく、そしてワイズダム発展の為に常に敏感なアンテナを持ち、皆様と積極的に挑戦します。

理事主題は「勇気ある変革、愛ある行動！」とさせていただきます。この主題は、第40代日本区理事(1994-1995年度)岡本尚男ワイズの理事標語をお借りしました。時代は変わっても、情熱と誇りを持つワイズの精神を守りつつ、YMCAを通して地域社会に奉仕するという旨は変わりません。それ以上に、混沌とする社会の情勢の中、ワイズ活動の意味が問われているかもしれません。

これまで、栗本治郎直々前理事の「広げようワイズの輪」、宮内友弥直前理事の「為せば成る」の主題が意味するところは、いずれもワイズ東日本区の活性化であります。東日本区が発足してから22年が経ち、メンバー総数が約3分の2に減少しています。同じ身体でも血液が減っていけば、様々な問題が生じます。会員増強に皆様と真剣に取り組まなければ、ワイズの存在意義を失うかもしれません。今こそ、クラブを挙げて、「Change!2022」プロジェクトに取り組みましょう。

メンバーの増強は、真のリーダーシップを持ち兼ねたリーダーの養成でもあります。

さて、ワイズとYMCAのパートナーシップ委員会も3年が経過しました。YMCAの会員であるワイズメンが、今後一層YMCAと手を組み、共に歩むべきビジョンが求められています。YMCAサービスは、私たちワイズメンにとっては、一丁目一番地です。国際・交流事業は、とりわけワイズの基本であり、醍醐味であると思います。

杜の都仙台にて7月19~21日に開催される第28回アジア太平洋地域大会は、正しくその楽しみを得るチャンスです。テーマは「Action! 前に進もう」です。「防災」・「復興」・「交流」をキーワードに、HCCも奮闘しています。是非、仙台にて、ワイズの輪を拓きましょう。また、IBCをもっと積極的に活動しましょう。

仙台起点の我が人生の筋道-3

高橋 カメン



私もこの支那人を忘れないな。ロウ君というのは広東州の人で、実におとなしい人間だったが、立派なものでしたね。その人に「高橋さん、日本なんて国にいないで支那にいか

いか、支那にいかないか、とおれは何度も誘われた。おれにはそこまで踏ん切るだけのものがなかったけれども。

内海 「そのころ、中国の学生とお会いになったことが、その後満州に行かれる一つのきっかけになったでしょうね」。

八郎 「言葉をかえれば、うんと彼らを見る目が違っていったなあ。普通の日本人は、あそこに稼ぎに行った一旗組が多かったようだ。

農民運動と別れてそれから私は東京に出た。偶然かなにか知らぬけど、ぶつかった人にいろいろ教えられ、宝物を沢山もらった」。

【以上、「わたしの歩んできたみち」から】

仙台時代の農民運動から抜けた父は東京の都新聞と関わる。その頃を母 千賀はこう語っていたのを思い出す。「茨城の実家から送られてくる米俵は瞬く間に空になって、若い大勢の人たちを養うにはとても大変だった」。

高橋八郎 仙台二高、東北帝大時代農民運動に没頭(宮城農民運動史に書記長高橋八郎と記載あり)

ある日、私は父に何故農民運動から離れたのか」と問うた。父はひと言呟いた。「ダラ幹が嫌になった」。「ダラ幹と農民-----農民同士が争った。おれはそれが一番いやだった。こういう運動は一つの表だけのもので、中味に至ってはみんな-----。私もあのときは自分の人生観が壊れちゃったな。本当に農民という言葉では大変いいように思うけれど、カネを欲しがるとは、カネが来るとダメなもんだな。カネを欲しがるとは、カネになってくると崩れちゃう。労働運動でもそうだろうと思う。これはよほど考えなきゃならないな」。

★今後の予定★
 ☆ アジア大会 7/19-21 ☆
 ☆ 8月例会(CS) 8/13 ☆